

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20591390

研究課題名(和文) 幼少時期に受けた両親からの養育的要因が、人格特徴・対人関係感性に与える影響

研究課題名(英文) Effects of parental rearing on personality traits and interpersonal sensitivity in healthy subjects

研究代表者

大谷 浩一 (OTANI KOICHI)

山形大学・医学部・教授

研究者番号：00194192

研究成果の概要(和文):

健常人を対象にし、幼少時期に受けた両親からの養育的要因が、人格特徴・対人関係感性に与える影響について検討した。健常日本人を対象に、幼少時期に受けた養育環境、人格特徴全般、対人関係感性をそれぞれ Parental Bonding Instrument (PBI)、Temperament Character Inventory (TCI)、Interpersonal Sensitivity Measure (IPSM) を用いて評価した。本研究より、幼少時期に両親から受けた非機能的な養育的要因は、性特異性を持って、うつ病と関連する人格特徴および対人関係感性に影響を与えることが示された。

研究成果の概要(英文):

The effects of parental rearing on personality traits and interpersonal sensitivity were studied in healthy Japanese volunteers. Perceived parental rearing was assessed by the Parental Bonding Instrument (PBI). Personality traits and interpersonal sensitivity were assessed by the Temperament Character Inventory (TCI) and the Interpersonal Sensitivity Measure (IPSM), respectively. The present study suggests that dysfunctional parenting influences depression-related personality traits and interpersonal sensitivity of the healthy subjects, with sex specificity.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	100,000	30,000	130,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,100,000	330,000	1,430,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：内科系臨床医学・精神神経科学

キーワード：精神病理学

## 1. 研究開始当初の背景

種々の精神疾患、特にうつ病と自殺行動は、幼少時期に受けた両親からの機能不全をきたした養育態度と関連すると報告されている。また、うつ病と自殺行動は、特徴的な病前人格との関連性が報告されている。これらの報告により、両親からの機能不全の養育態

度は、子供の人格特徴に影響を与えることにより、後年、様々な精神疾患を発症させると推測される。しかしながら、両親の養育態度と人格特徴との関連を包括的に検討した研究はこれまでにほとんどない。

## 2. 研究の目的

健常人を対象にし、幼少時期に受けた両親からの養育的要因が、人格特徴・対人関係感性に与える影響について検討する。

### 3. 研究の方法

健常人を対象に、幼少時期に受けた養育環境、人格特徴全般、対人関係感性をそれぞれ Parental Bonding Instrument (PBI)、Temperament Character Inventory (TCI)、Interpersonal Sensitivity Measure (IPSM) を用いて評価する。得られた結果より、養育環境が人格特徴、対人関係感性に与える影響について検討する。

### 4. 研究成果

A. 414例の健常人を対象に、幼少時期に受けた両親からの養育的要因と人格特徴を、それぞれTCIとPBIを用いて評価した。養育的要因をPBIの愛情と過保護の2因子の得点により“適正養育”“怠慢養育”“愛情のある過干渉”“愛情のない過干渉”の4群間に分け、これらがTCIの7因子の得点に与える影響を検討した。その結果、健常人において母親による“愛情のない過干渉”の養育態度は特異的な人格特徴、特に損害回避と関連することが示された。

B. 469例の健常人を対象に、幼少時期に受けた両親からの養育的要因と対人関係感性を、それぞれPBIとIPSMを用いて評価した。その結果、男性・女性共に、対人関係感性は同性の親の高い過保護と関連し、それに加えて男性においては高い母親の過保護とも関連することが示された。

C. 640例の健常日本人を対象に、対人関係感性と幼少時期に受けた両親からの養育態度をそれぞれIPSM、PBIを用いて評価し、PBIの愛情と過保護の2因子の得点から4種類の養育スタイル(適正養育、愛情のある干渉、怠慢養育、愛情のない干渉)に分類した。結果として、対人関係感性は同じ性の両親より受けた非機能的養育スタイルにより上昇することが示された。

以上より、幼少時期に両親から受けた非機能的な養育的要因は、性特異性を持って、うつ病と関連する人格特徴および対人関係感性に影響を与えることが示された。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

1. Otani K, Suzuki A, Matsumoto Y, Kamata M: Parental overprotection increases interpersonal sensitivity in healthy subjects.

Comprehensive Psychiatry, 2009, 50, 54-58. (査読有)

2. Otani K, Suzuki A, Oshino S, Ishii G, Matsumoto Y: Effects of the “affectionless control” parenting style on personality traits in healthy subjects. Psychiatry Research, 2009, 165, 181-186. (査読有)
3. Otani K, Suzuki A, Shibuya N, Matsumoto Y, Kamata M: Dysfunctional parenting styles increase interpersonal sensitivity in healthy subjects. Journal of Nervous and Mental Disease, 2009, 197, 938-941. (査読有)

[学会発表](計2件)

1. 大谷浩一: うつ病の心理社会的側面: 第59回日本農村医学会学術総会: 平成22年11月11日: 岩手県盛岡市
2. 大谷浩一: 愛着理論から見た親の養育と人格形成: 二本松会管理職研修会: 平成22年7月17日: 山形県山形市

[図書](計0件)

[産業財産権]  
出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]  
ホームページ等

### 6. 研究組織

(1)研究代表者

大谷 浩一 (OTANI KOICHI)  
山形大学・医学部・教授  
研究者番号: 00194192

(2)研究分担者

無し

(3)連携研究者

無し